

大地の息吹が
見えてくる。

自然が創った大彫刻

今から160万年前の火山活動で噴出した溶岩が冷えて固まるとき六角形の柱状に規則正しく割れ目が入り、長い年月をかけ波の浸食により地表に現れた大彫刻。

5つの奇岩洞は、天を守る中国の四神獣にちなみ「玄武」「青龍」「白虎」「朱雀」「北朱雀」それぞれに名前がつけられました。

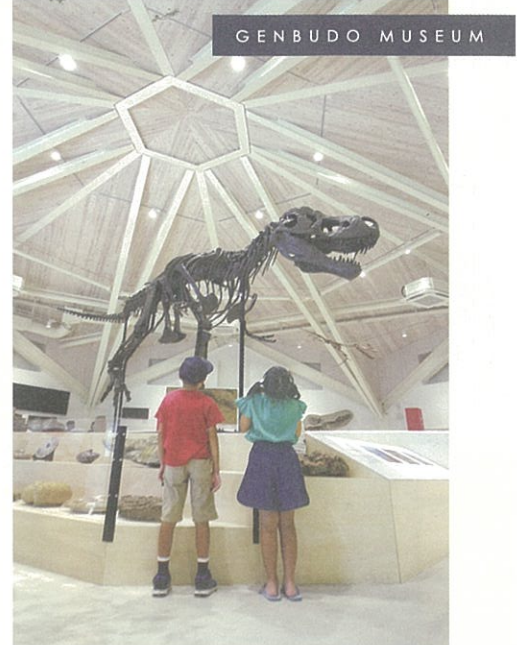
その希少性から国の天然記念物に指定され、近年山陰海岸ジオパークの認定を受けたことで、山陰海岸国立公園を代表する貴重な自然遺産としてさらに注目されています。



ミュージアムで大人気の音の鳴る石「カンカン石」を叩いて曲を奏でてみよう!!



本物の化石に触れることができるよ!!



GENBUDO MUSEUM

広々とした館内でティラノサウルスや石の不思議に驚きっぱなし!!

見て、触って、
驚き学ぶ「地球」のこと

玄武岩をはじめ、世界各国から集められた鉱物、宝石、奇石、化石など、ここでしか見ることのできない石の標本を数多く展示しています。
見たり、触れたり、実際に体感することで地球への好奇心がふくらみます。
また、当館では豊岡市の地場産業「靴」へとつながる「豊岡杞柳細工」の歴史や技術を紹介し、地域に根差した施設となることを目指しています。



玄武岩、と背くらべてみよう!!



ツルツル、ザラザラしてるね。

実寸大のアジアゾウ全身骨格がお出迎え!



豊岡杞柳細工の歴史を知る



各時代ごとの移り変わりを知ることができます。

円山川の下流に位置する豊岡盆地は、起伏の少ない低地のため、洪水が多く米の収穫が不安定でした。

そこで人々は、湿潤な環境を好み多く自生していた「コリヤナギ」でかごを編み始め、江戸時代には「豊岡の柳行李」として全国に知られる特産品へと成長させました。

その後も、各時代ごとに様々な製品に姿を変えながら技術は受け継がれていき、今日でも柳独特の柔らかさと粘りを生かした、素材で温かな風合いの「杞柳細工」が作り続けられています。



今でも大切に育てられている杞柳細工の原料「コリヤナギ」

